

**2020年3月期第1四半期 決算カンファレンスコール議事録**  
(2019年8月2日実施)

**【今期の業績について】**

Q：第1四半期（Q1）の業績は、会社計画に比べてどうだったか。また、事業別に見た場合、上振れ/下振れした事業はどこか。第2四半期（Q2）はどのように想定しているか。

A：Q1は、会社計画に対して売上は想定通りで、利益は若干上振れた。部品事業が下振れ、特に「産業・自動車用部品」では、半導体製造装置（SPE）用部品等が想定以上に悪かった。一方、通信機器事業は、売上・利益共に上振れた。有機材料事業とソーラーエネルギー事業も利益面では想定よりも若干良かった。

Q2に向けては、半導体市場関連は第3四半期（Q3）から第4四半期（Q4）の間に回復してくると期初には想定していたが、現在の見通しでは、Q4にも戻りそうにない。電子部品は、スマートフォン関連向けはQ2に季節的に増加が見込まれるが、流通在庫の関係で想定ほど強い回復はみられない。一方、エネルギー関連については想定よりも上振れる見通し。

Q：2019年3月期（前期）に構造改革を実施したソーラーエネルギー事業、有機材料事業、通信機器事業の業績改善について教えて欲しい。またQ1に好調だった通信機器事業は、Q2以降も堅調に推移するか。

A：ソーラーエネルギー事業及び有機材料事業はQ1では赤字が残っているが、単月で見ると黒字化しており、採算面ではかなり大きな改善となっている。ソーラーエネルギー事業は今後も改善が進むだろう。有機材料事業も市況に不透明感はあるが、基本的には改善していく。通信機器事業については、赤字になることはないだろう。

Q：Q1の一過性の費用はいくらか。

A：創立60周年行事関連費用で約55億円、海外子会社に関連する費用で約25億円、合計約80億円が一過性の費用となる。

Q：Q2も想定通りに進む見通しか。

A：部品関連は、米国の中国に対する関税第4弾の発表もあり、不透明感が強い。

### 【産業・自動車用部品】

Q : 「産業・自動車用部品」では、Q1にM&Aによる売上への貢献額が約80億円あったとのことだが、これを除くと前期比で100億円の減収となる。この内訳を教えてください。

A : SPE用部品と車載向けディスプレイの減収が大きな要因。両事業の影響は同じくらい。

Q : Q2以降の業績に影響する、M&Aによる新規子会社の寄与について教えてください。

A : ①H.C.スタルク社 : Q1よりフル寄与している

②サザンカーソン社 : 6月に子会社化したので、Q1に1ヵ月分寄与  
(Q2よりフル寄与)

③フリアテック社 : 9月グループ入り予定なので、Q2は1ヵ月分のみ  
(Q3よりフル寄与)

Q : Q2のM&Aによる利益貢献はいくらか。また、M&Aに伴いQ1には費用が発生したということだが、Q2に追加計上はあるか。

A : Q2までは、在庫等の処理で費用が発生するだろう。

Q : SPE用部品のQ2以降の見通しを教えてください。

A : 期初はQ4から回復すると想定していたが、客先の在庫等の影響で、今期中には回復しないだろうと予想している。今期中は現在の水準の横ばいで推移する見通し。

### 【電子デバイス】

Q : AVX Corporationの売上減以外に、期初見通し時点からの変化はあるか。また、MLCCのハイエンド品が好調な要因は何か。

A : AVX Corporationを除いた電子デバイスは想定通りだった。MLCCはスマートフォン向けの超小型高容量品が多い。MLCC全体では当社のシェアは低いですが、超小型高容量品では比較的高いシェアとなっており、これが好調に推移した。大手スマートフォンメーカー各社に対し、比較的高シェアで採用いただいている。また、5Gの基地局向けで一部採用され始めたことも要因の一つ。

Q : AVX Corporation以外の電子デバイスのQ2以降の見通しを教えてください。

A : スマートフォン向けは、ほぼ想定通りで推移するだろう。

### 【通信機器事業(コミュニケーションセグメント)】

Q：通信機器事業が想定より良かった要因は何か。

A：生産拠点の集約等が前期 Q3 で目途が立ち、原価低減できたことが要因。販売面では、シニア向けのスマートフォンが想定より売れた。

Q：Q1 の改善は一過性ではなく、Q2 以降も改善傾向にあるという認識か。

A：そう。前期よりは間違いなく改善する。

Q：10 月 1 日から、国内通信会社の販促費の影響で国内の端末の値段が上がると思うが、これの下期への影響を教えて欲しい。

A：ハイエンド品は影響があると思うが、京セラはミドル品からローエンド品を多く扱っているので、大きな影響は受けないだろう。

### 【ドキュメントソリューション】

Q：Q2 以降の見通しを教えて欲しい。

A：Q1 は、現地通貨ベースでは減収減益になっていない。ユーロ安の影響を受けている。Q2 以降は例年通り推移すると予想している。

### 【ソーラーエネルギー事業(生活・環境セグメント)】

Q：ソーラーエネルギー事業が想定より良かった要因は何か。

A：前期に実施した、ポリシリコンの長期購入契約の和解等により、原材料に関する懸案事項がなくなった。また、生産性向上への取り組み成果が出始めている。

Q：新工法等の生産性向上による今後の収益改善について、進捗状況を教えて欲しい。

A：今期に自動化を進めているが、今期の下期中には目途を付けたい。

Q：下期に目途がついた段階で、どれほどの事業利益率を想定しているか。

A：前期は大きな赤字だったが、今期下期は 5%を目指す。

### 【棚卸資産について】

Q：前期末から 250 億円ほど棚卸資産が増加しているが、これは買収したサザンカーソン社の影響によるものか。

A：増加の半分はサザンカーソン社の影響。残りはドキュメントソリューションや部品事業で、Q2 以降の販売増に備えている。

### 【研究開発費について】

Q：研究開発費は、通期 800 億円の予想に対して Q1 の実績が少ない印象にある。みなとみらいリサーチセンターの影響で Q2 以降に増加してくるのか、それともコスト削減が進んでいるのか。

A：研究開発費を意図的に抑えているということはない。研究開発のタイミングによるもの。Q2 以降の研究開発を当初の計画通り進める。

### 【2021 年 3 月期（来期）の見通しについて】

Q：来期の見通しについて教えて欲しい。M&A によるシナジー効果も含めて、売上、利益をどのように予想しているか。

A：現時点で来期の見通しは難しいが、売上 2 兆円目標は変えていない。今期の世界情勢等も踏まえると精査は必要。M&A も引き続き積極的に検討を進め、2 兆円へ近づけていきたい。

Q：来期に期待できる分野はどこか。

A：SPE 用部品は、不透明感は強いが、来期下期には回復してくるだろうと期待している。5G の部品関連は、今期下期から増えてくるだろう。また、ソーラーエネルギー事業は、10 月以降サービス開始予定の関西電力株式会社との合弁事業や、蓄電池等も来期に向けて増やしていけると考えている。

Q：自動車関連の見通しを教えて欲しい。

A：現状の市況は厳しく、切削工具事業は苦労している。一方、電子部品関連は、車の台数が減少しても需要自体は増加している。ADAS 関連の電子部品は強気の見通しが立てられる。

### 将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての 2020 年 3 月期第 1 四半期決算カンファレンスコール開催日（2019 年 8 月 2 日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。